

## 地域でできる取組があります

子どもの健全育成には、地域の方々の協力が不可欠です。

- 地域の子どもは地域で育てるという気持ちで、普段から近所の子どもと明るいあいさつを交わし、優しく温かく見守り、そして間違ったことをしたときは厳しく叱りましょう。もちろん、大人同士が、あいさつ・声かけをすることも大切です。
- 子どもを犯罪被害から守るための防犯パトロール等の途中で、万引被害の多い店舗の巡回をしましょう。その際には子どもへのあいさつ・声かけも忘れずに！
- 子ども自身が万引について考えるような取組（ディベート大会、作文、意見発表会など）を、学校、PTA、健全育成団体、町会等が連携協力して実施してみましょう。
- 商店では、顧客への積極的な声かけ、死角をつくらない店内レイアウト、商品陳列の工夫など「万引をさせない」店づくりに努めましょう。

地域全体で、子どもを見守る環境づくりを一緒にすすめていきましょう。

### 子どもに、絶対、万引をさせない!! 宣言

自分の子どもや、地域の子どもに万引をさせないためにあなたができることを考えてみましょう。

#### ■ ヤング・テレホン・コーナー（警視庁少年相談室）

☎ 03-3580-4970（月～金／8:30～20:00 土日・祝日／8:30～17:00）

#### ■ 東京都児童相談センター電話相談室

☎ 03-3202-4152（月～金／9:00～20:30 土日・祝日／9:00～17:00）

#### ■ 東京都教育相談センター電話相談

☎ 03-5800-8008（月～金／9:00～21:00 土日・祝日／9:00～17:00）

万引を  
しない  
させない  
見逃さない！

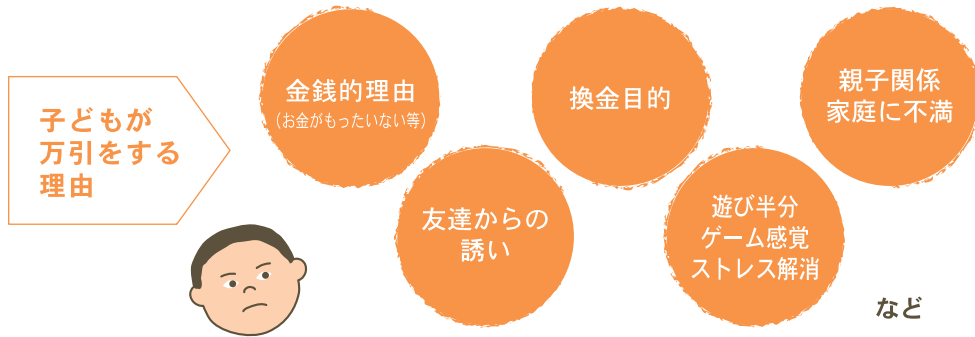


## 「たかが万引」と思っていませんか？

### ● 万引は犯罪です

※ 刑法第235条【窃盗】他人の財物を窃取した者は、窃盗の罪とし、十年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する。

- 万引を繰り返すようになった後、ひったくり、自動車泥棒、強盗と犯行がエスカレートしていくことがあります
- 万引が仲間はずれやいじめの原因になることがあります
- 商品の返却や弁償だけで済む問題ではありません



## 見つからなければ、またやっちゃう？

過去に万引をしたことのある中学生を対象にした調査では、「見つからなかったから」「注意されなかったから」等の理由で万引を繰り返すようになり、その結果、罪悪感を感じなくなって常習化していくことがわかっています。

### 再び万引をする理由

- 1位 見つからなかったから
- 2位 注意されなかったから
- 3位 代金を支払い、許されたから

### 万引をするときの気持ち

はじめて万引をした子ども	2~9回万引をしたことのある子ども	10回以上万引をしたことのある子ども
1位 いけないことだと迷った	1位 見つかるのが怖かった	1位 スリルがあって楽しかった
2位 見つかるのが怖かった	2位 いけないことだと迷った	2位 何も感じなかった

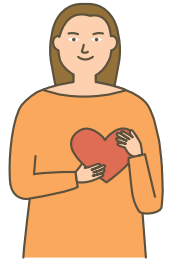
### 万引の恐怖のスパイラル

万引は繰り返すうちに、スリルを楽しむようになるなど、高揚感を感じるようになります。

## 大人の責任「子どもに、絶対、万引をさせない」という教育を

### 「子どもに、絶対、万引をさせない」教育

一度でも万引をしてしまうと、再び万引をしてしまう可能性が高まります。まず、絶対に万引をさせないことが大切。どんな誘惑にも負けず乗り越えることができる強い心を育てるのは大人の責任です。



### もしも、子どもが万引をしてしまったら

#### ● 「二度とさせない」決意

はじめての万引のあと適切な対応をしないと、結果的に非行を助長することもあります。

#### ● きちんと叱る

「怒る」のではなく、毅然とした態度で「叱る」ことが大切です。

#### ● 子どもと一緒に、万引した店に謝罪に行く

保護者が身をもって謝罪する姿を見せることで、子どもは自分が万引をしてしまったことの重大さに気付きます。

#### ● 万引した理由・原因をさぐり、子どもと向き合う

家庭(放任・虐待・過保護・家庭不和等)、学校、友人関係に問題がある場合があります。



Check!

### ✓ 家庭の教育をもう一度振り返ってみましょう

- ✓ 日ごろから家庭のふれあいを大切にしていますか。
- ✓ 善いこと、悪いことの区分をしっかりと教えていますか。
- ✓ 子どもが間違ったことをしたとき、きちんと叱っていますか。
- ✓ ねだる子どもに我慢をさせていますか。
- ✓ 保護者自身が、子どもの手本になるような生活をしていますか。
- ✓ 人を思いやる気持ち、人の痛みを感じる心を育てていますか。
- ✓ 子どもが話すことを、子どもの目を見てきちんと聞いてあげていますか。